

2004 年 10 月

トランスネフチ社はパイプラインを東方で建設する

(コメルサント 2004 年 10 月 20 日)

2004 年 12 月 31 日、ロシア政府は東シベリア・太平洋石油パイプライン建設に関する指令書 1737-R を発表した。この文献を理解するうえで、トランスネフチ社ワインシトク総裁の発言は、非常に参考になる。

10 月 19 日、トランスネフチ社の総裁セミヨン・ワインシトク氏は次のように語った。

東方石油パイプライン「タイシェット - ナホトカ」の建設に関する政府の最終決定は 12 月になされる。

この時期までに、政府はプロジェクトの融資を決めなければならない。いくつかの案の一つは、ロシア連邦の安定資金の利用である。このような提案が産業エネルギー省から出されている。

トランスネフチ社は、北方ルート（西シベリア - バレンツ海）の建設とバルチック・パイプラインシステム（BTS）の拡大により、原油の輸送量を拡大しようとしている。

東方プロジェクトでは、タイシェット - カザチンスコエ - スコウオロジノ - ハバロフスク - ペレヴォズナヤ湾へのパイプライン建設を予定している。このシステムの能力は年間 8,000 万トンの原油輸送であり、投資総額は 160 億ドルである。プロジェクトの原油は 2,400 万トンが西シベリアから、5,600 万トンは東シベリアとサハ共和国（ヤクート）の油田から供給される。後者の大部分はまだ未開発である。

東方プロジェクトへの投資の FS は、今年 7 月に天然資源省で実務的審査に入った。「法律によると、このプロセスは 6 カ月かかる」と産業エネルギー大臣の V. フリスチェンコ氏は記者に次のように語った。審査の結果、政府は石油パイプラインのルート、輸送量、資金の供給元について公式の決定を採択する。その後、中国への支線を建設する可能性を検討する。

ワインシトク氏によると、トランスネフチ社はこのプロジェクトの段階的実現を提案しているという。第一段階にタイシェットからスコウオロジノまでと、可能な限り中国への支線を含む石油パイプラインを建設する。並行してナホトカの石油ターミナルを建設する。スコウオロジノからの原油は、鉄道を利用してターミナルへ運ばれる。トランスネフチ社はロシア鉄道会社との間で石油タンク車を用い、バム鉄道を通じて原油を輸送することに合意をみている。

資金源について、フリスチェンコ大臣は安定資金があてられるとの見解を述べている。しかしこれは、外国からの借款を返済し、年金の赤字分を補填して、なお資金が余る場合にのみ限られる。8月に政府は専門省庁に、安定資金が水準以上に蓄積された場合、その資金を活用するための追加的処置について法案を準備するよう指示した。「一部の資金を国内の大型プロジェクト、まずインフラ型プロジェクトへの投資、例えば、電力の送電網や東方パイプラインの建設に用いるべきである」とフリスチェンコ大臣は考えている。

トランスネフチ社は輸出量の増大をその他のプロジェクトの拡大によって達成できると考えている。それはBTSの通過能力を6,200万トンに（今年の作業結果からみるとシステムの能力は5,000万トン）拡大することによる。「もし政府が同意するならば、BTSの上述能力は16カ月後に達成できる」とトランスネフチ社総裁は語った。

トランスネフチ社は、あと一つの戦略的石油パイプライン - 北方ルートの準備を整えている。このラインは西シベリアの油田をバレンツ海に結びつける（政府決定がなされたのち、10カ月でFSが完了できる）。

現在二つの建設案が検討されている。スルグト - ウサ - スウヤトイ・ノス岬あるいはボリシヨイ・ルミヤニチネイ岬。

スルグト - ハリヤガ - スウヤトイ・ノス岬あるいはボリシヨイ・ルミヤニチネイ岬。

トランスネフチ社では、西シベリアの油田は毎年3,000万トンの石油を、チマノ・ペチョルスキー油田域は2,000万トンをシステムに保証しようと考えている。

「トランスネフチ社は最近数年来、輸出能力を常に伸ばしてきた。1999年の石油パイプラインによる輸出能力は1億4,200万トンだったが、2004年には2億4,000万トンを達成した。2005年の輸送能力は2億5,500万トンとみている」とワインシトク氏は述べた。これには、石油採掘者がそれだけの数量を保証できたら、という前提がつく。今年の9カ月間を見ても、トランスネフチ社のシステムへの原油供給は公表された数量よりも1,400万トンも少なかった。